

愛媛県宇和島市の方言文末詞「ワ」・「ワイ」

中 川 寛 之

1. はじめに

現在の愛媛県宇和島市では若年層を中心に「ワ」という方言文末詞が盛んに使用されている。この「ワ」は主に女性が使用されると言われる上昇イントネーションになるもの¹⁾とは異なり、下降イントネーションで若年層の男女いずれもが使用できるものである。

- (1) (体調がすぐれず早めに寝ることを家族に伝えるとき)

ちょっとしんどいけん、今日は早めに寝るワ。

- (2) (友人から今日は学校を休むという連絡があつて返事をするとき)

分かった。先生に伝えとくワ。

一方、宇和島市方言では(1)・(2)で「ワ」以外にも「ワイ」や、「ワイ」に由来する形式で前接語に「-a + イ」を付加して音融合を起こすもの(以下「-a + イ」)、「ワヤ」に由来する形式で前接語に「-a + ヤ」を付加して音融合を起こすもの(以下「-a + ヤ」)などが使用されることもある。

- (3) ちょっとしんどいけん、今日は早めに {寝るワ／寝るワイ／寝ライ／寝ラヤ}。

- (4) 分かった。先生に {伝えとくワ／伝えとくワイ／伝えとカイ／伝えとカヤ}。

筆者の観察するところでは、「-a + イ」は若年層に限らず幅広い世代で使用されている形式であるが、「-a + ヤ」は高年層の一部が使用する程度で現在はあまり耳にしない。また、「ワイ」は先行研究の記述と筆者の内省・観察とが一致しない部分があるほか、主に若年層での使用が見られる宇和島市方言としての「ワ」の記述も管見の限り見当たらない。

以下本稿では宇和島市方言としての「ワイ」に関する先行研究を確認したのち、宇和島市方言の「ワイ」・「-a + イ」、および宇和島市の若年層が使用する「ワ」の用法記述を順に行う。加えて、「ワ」・「ワイ」・「-a + イ」のそれぞれの使用実態を確認するために行った聞き取り調査の結果を報告し、調査の結果から上記三形式の関係性について考察を述べる。なお、「-a + ヤ」は筆者の内省が及びづらい上、現在ほとんど耳にしない表現形式であるため本稿ではこれ以上触れないこととする。記述の際は方言文末詞をカタカナで示し、それ以外は漢字ひらがな交じりで示す。例文の文法性判断は筆者（1994 年生まれ。0 歳～18 歳は愛媛県宇和島市に、18 歳以降は大阪府吹田市に在住）の内省に基づいており、形態・統語的に不適格な場合は「*」を、文脈的に不適切なものは「#」を、容認しづらいもの・判断が揺れているものは「?」を、理解できるが使用しないものは「??」を付す。また、注目すべき箇所には適宜下線を施す。

2. 先行研究

冒頭で述べた通り、宇和島市方言としての「ワ」の記述は管見の限り確認できない。宇和島市で使用される語彙や文法などをまとめた国村（1956）や杉山（1997）、宇和島市で収録した談話データを文字起こしした篠崎（1987）などを参照すると「ワイ」や、「-a + イ」に由来する「ライ」や「イ」などの記述や用例は確認できる。まずは「ワイ」について篠崎（1987）と杉山（1997）の記述を引用する。

ワイ 「降るワイ」「行くワイ」などが「降ル+ワイ」で「降ライ」、「行ク+ワイ」で「行カイ」となる。
(篠崎（1987）：6)

ワイ ①未来表現態に続いて意志をあらわす。「わしから言うて聞^カそうワイ」
②終止形に続いてその意を強める。語末に「る」音があるものは融合する。
「私^{ウチ}がして上げライ」「僕も知っとライ」（九島では、上接音と融合せずにバイとなっている。「わしがするバイ」「わしにゃ出来んバイ」）

(杉山（1997）：555)

なお、筆者の内省では杉山（1997）でいう②の用法は現在でも問題なく使用できる。しかし、意向形と共起する①の用法は理解できるが使用しない。松山市出身の若年層話者（1991 年生まれの男性）²⁾ に確認したところ、①のように「ワイ」を

意向形に共起させる用法を現在でも使用することだが、筆者の観察では宇和島市で①のように「ワイ」が使用されることはほとんどないように感じる。愛媛県内であっても用法に地域差が生じている可能性があるが、地域差の観点からの分析は本稿では触れずに今後の課題としておく。

次に、藤原(1986)に見られる「-a + イ」の記述を確認しておく。なお、藤原(1986)は本稿でいう「-a + イ」のことを「ワイ」が「陰在」「伏在」ともしたものであると解釈している。本稿でも同様の立場をとって記述を進めることにする。

愛媛県下には、「～ぬ ワイ」の「～ナイ」の聞こえもさることながら、「～まする ワイ」の「～マスライ」の聞こえが、中部以南にいちじるしい。「上げる」の下に「ワイ」がくれば「アゲライ」ができる。「～でする ワイ」は「～デスライ」になる。「～なさる ワイ」は「ナサライ」になる。これらがやはり「ライ」の聞こえも示すので、愛媛県中部以南では、「ライ」がひじょうによく聞かれる結果になっている。そのうち「デスライ」などのばあいは、今日の語感からして「デス」と「ライ」とを切りはなすことができるので、人は「ライ」を文末の特別のことばと思いがちである。(藤原(1986):390)

以上、「ワイ」および「-a + イ」の先行研究について確認した。3では宇和島市方言として使用される「ワイ」および「-a + イ」の用法を、4では主に宇和島市の若年層が使用する「ワ」の用法を、筆者の内省や先行研究を基に記述する。

3. 「ワイ」および「-a + イ」の用法

ここでは「ワイ」および「-a + イ」の用法について記述する。先述の通り、「-a + イ」という形式は「ワイ」が陰在したものだと考えられるため基本的には同時に記述を進めるが、必要に応じて両者を分けて考えることもある。

3.1 「ワイ」および「-a + イ」の前接要素・後接要素

まずは、「ワイ」および「-a + イ」の前接要素について述べる。なお、伝統的な宇和島市方言では形容動詞の終止形が「な」になるとされている(工藤・八亀(2008))ため、現在の若年層が使用する「や」を終止形にとる形容動詞とは区別して記述する。また、名詞述語はコピュラ(「や」)の有無にかかわらず、文法的に不適格とな

るため、「ワイ」および「-a + イ」は付加されない。

- (5) 今日はそろそろ {寝るワイ／寝ライ}。(動詞述語)
- (6) a. 今日は本当に {暑いワイ／*暑いアイ}。(形容詞述語：現在形)
 b. 昨日は本当に {暑かったワイ／暑かったイ}。(形容詞述語：過去形)
- (7) a. お姉さんはよいよ {? 元氣やワイ／*元氣ヤイ}。(形容動詞述語)
 (「よいよ」は「とても」の方言形)
 b. お姉さんはよいよ {?? 元氣なワイ／?? 元氣ナイ}。
 (形容動詞述語：方言形)
- (8) 明日の試合は多分 {*中止ワイ／*中止やワイ／*中止アイ／*中止ヤイ}。
 (名詞述語)

(5) は動詞述語で「ワイ」および「-a + イ」を問題なく使用できる。(6a) の形容詞述語に「-a + イ」は共起しないが、「ワイ」は問題なく使用できる。一方で、(6b) のように過去形になると「ワイ」および「-a + イ」はいずれも使用できる。また、(7a) のように終止形が「や」の形容動詞述語では「-a + イ」は文法的に不適格となるが、「ワイ」は文法的にやや違和感があり使用できるか否か判断が揺れている。(7b) のような伝統的な宇和島市方言の形容動詞述語になると、筆者は使用しないが中高年層の話者が使用しても違和感のない表現になる。(8) の名詞述語では「ワイ」および「-a + イ」は文法的に不適格である。

また、「ワイ」および「-a + イ」は他の文末詞には後接しない。

- (9) 今日はそろそろ寝る {*ナ／*ネ／*ヨ／*ゾ} ワイ。

次に、後接要素について述べる。「-a + イ」は「ナ」か「ネ」が後接すると、会話の聞き手に同意を求める意味合いになる。ただし、「ワイ」に「ナ」や「ネ」を共起させると関西方言的な表現だという意識があり使用しづらい。

- (10) (少年時代を振り返って話するとき)
- a. あの頃はよく野球しよっタイ {ナ／ネ／*ヨ／*ゾ}。
 b. あの頃はよく野球しよったワイ {? ナ／? ネ／*ヨ／*ゾ}。

3.2 「ワイ」および「-a + イ」と共起する文タイプ

筆者の内省では「ワイ」および「-a + イ」は平叙文にのみ共起し、その他の行為要求文や疑問文とは文法的に不適格となるため共起しない。なお、先述の通り先行研究には意向形と共起する「ワイ」が確認できるが、現在宇和島市方言ではほとんど使用されていないと思われる。筆者の内省でも、意味は理解できるが周囲で使用している人を減多に見かけないためわざわざ使用することはない。

- (11) 今日はそろそろ {寝るワイ／寝ライ}。(平叙文)
- (12) 一緒に買い物 {?? 行こうワイ／?? 行こワイ}。(勧誘文)
- (13) はよ {＊しろワイ／＊しライ}。(命令文) (「はよ」は「早く」の方言形)
- (14) もう {＊泣くなワイ／＊泣くナイ}。(禁止文)
- (15) 明日雨 {＊降るかワイ／＊降るカイ}。(真偽疑問文)
- (16) いつ {＊言ったかワイ／＊言ったカイ}。(疑問語疑問文)

3.3 「ワイ」および「-a + イ」の意味用法

ここでは「ワイ」および「-a + イ」の意味用法について述べる。基本的には「ワイ」も「-a + イ」も同じ意味用法を持ち、いずれも話し手の意志や知識を聞き手に提示するときに使用される。

- (17) (体調がすぐれず早めに寝ることを家族に伝えるとき)
ちよっとしんどいけん、今日は早めに {寝るワイ／寝ライ}。
- (18) (雨が降ってきたことを隣にいる友人に伝えるとき)
あー、いけん。雨降って {きたワイ／きタイ}。(「いけん」は「だめだ」の方言形)

ただし、「ワイ」および「-a + イ」は強制力を持って当該命題を導入するほど聞き手に働きかける効果はなく、あくまでも認識するよう提示する程度に留める効果があると考えられる。宇和島市方言の「ヨ」(≒共通語の「よ」)と比較すると、「ヨ」は聞き手に強制的に伝達内容を導入させようとする場面でも使用できるが、「ワイ」および「-a + イ」はそのような場面ではやや使用しづらくなる。

- (19) (朝仕事に出掛ける前に家族に挨拶をするとき)

A：それじゃ、行って {くるワイ／くライ／くるヨ}。

B：はい、気をつけてね。

(20) (朝仕事に出掛ける前に家族に挨拶をするとき)

A：それじゃ、行って {くるワイ／くライ／くるヨ}。

B：(家族はテレビに夢中で誰も反応しない。)

A：聞いとるんか。行って {?くるワイ／?くライ／くるヨ}。

B：あ、ごめんごめん。行ってらっしゃい。

また、「ワイ」および「-a + イ」は (21) のように使用して聞き手を突き放すニュアンスを含めることも可能である。

(21) (親からゲームをやめるように言われて苛立ちながら返事をするとき)

A：さっきからずっとゲームしよるけど、宿題をやりなさい。

B：うるさいなあ、{分かつとるワイ／分かつとライ}。

ただし、宇和島市方言の「ワイ」および「-a + イ」に常時聞き手を突き放すニュアンスが含まれるのではなく、あくまでも文脈に依存する部分が大きいと考えられる³⁾。

なお、野間 (2012) では大阪方言の「ワイ」を、同じ大阪方言の「ワ」と関連付けて記述している。野間は大阪方言の「ワ」には当該命題が「話し手の領域にとどまっている」ことを示す機能があることから、「あくまで自分のことだ」というような聞き手を突き放すニュアンスが生じ得るとしている。そして「ワイ」は独り言で使用できないことを根拠に、「ワ」に「イ」を付加することで「ワ」の「聞き手目当て性を強める」と説明している。

(22) (独り言で) あ、雨が降ってきた {ワ／＃ワイ}。

(23) (独り言で) あー、もう疲れた {ワ／＃ワイ}。

(野間 (2012) より抜粋)

上記のことは宇和島市方言の「ワイ」および「-a + イ」にも当てはまり、「ワイ」および「-a + イ」はいずれも独り言で使用することはできない。

- (24) (雨が降ってきたことに気がつき独り言で)

あ、雨が降って {#きたワイ／#きタイ}。

以上のことから、「ワイ」および「-a + イ」の意味用法は以下のようにまとめることができる。

- (25) 「ワイ」および「-a + イ」の意味用法

「ワイ」および「-a + イ」は聞き手が知らないと思われる話し手の意図や知識を提示する際に用いられるが、当該命題を強制的に導入するほど聞き手に働きかける効果はなく、認識することを期待して提示する程度に留めることを示す。

4. 「ワ」の用法

続いて、主に若年層が使用する「ワ」の用法を記述する。

4.1 「ワ」の前接要素・後接要素

まずは、「ワ」の前接要素について述べる。「ワ」は動詞述語、形容詞述語、形容動詞述語、名詞述語（コピュラが無い場合は不適格）のいずれにも使用できる。ただし、伝統的な字和島市方言の形容動詞述語では「ワ」と共起しづらくなる。

- (26) 今日はそろそろ寝るワ。(動詞述語)

- (27) a. 今日は本当に暑いワ。(形容詞述語：現在形)

- b. 昨日は本当に暑かったワ。(形容詞述語：過去形)

- (28) a. 相変わらず田中くんは元気やワ。(形容動詞述語)

- b. ?相変わらず田中くんは元気なワ。(形容動詞述語：方言形)

- (29) 明日の試合はたぶん {*中止ワ／中止やワ}。(名詞述語)

また、「ワ」は他の文末詞には後接しない。

- (30) 今日はそろそろ寝る {*ナ／*ネ／*ヨ／*ゾ／*ワ} ワ。

次に、「ワ」の後接要素について述べる。「ワ」に「ナ」か「ネ」が後接すると、会話の聞き手に同意を求める意味合いになる。また、「ヨ」が後接すると聞き手に有無を言わず話し手の意向を伝える意味合いになる。ただし、「ネ」と「ヨ」はやや共通語的かつ女性的であるため筆者は使用しない。

(31) 今日はそろそろ寝るワ {ナ／?? ネ／?? ヨ／*ゾ}。

4.2 「ワ」と共起する文タイプ

「ワ」は平叙文にのみ共起し、その他の行為要求文や疑問文とは共起しない。

- (32) 今日はそろそろ寝るワ。(平叙文)
- (33) *一緒に買い物行こうワ。(勧誘文)
- (34) *はよろしワ。(命令文)
- (35) *もう泣くなワ。(禁止文)
- (36) *明日雨降るかワ。(真偽疑問文)
- (37) *いつ言ったかワ。(疑問語疑問文)

以上、「ワ」の形式的特徴について記述した。宇和島市の若年層が使用する「ワ」は野間（2011）で記述されている大阪方言の「ワ」と比較しても前接要素・後接要素に加え、共起する文タイプも平叙文のみという点で共通している。

4.3 「ワ」の意味用法

ここでは、「ワ」の意味用法について述べる。野間（2011）では大阪方言の「ワ」の意味用法について以下のようにまとめられているが、宇和島市方言の「ワ」とかなり類似したものだと考えられる。

- (38) ワは、
 - a. 当該命題の内容が話し手がある場で考えたり知ったりしたことであり
 - b. それが話し手の領域にとどまっている
 ということを表す
- （野間（2011）：39）

(38a) の「当該命題の内容が話し手がある場で考えたり知ったりしたこと」とい

うのは、以下のような場面が想定される。

(39) (初めて入った店で食べたカレーが想像以上に美味しかったとき)

A: お、このカレーおいしいワ。

B: ほんと美味しいね。

(40) (学校が明日休みだということをたった今知らされたとき)

A: 台風の影響で明日は学校休みらしいよ。

B: え、明日休みなんか。知らなかったワ。

(39) は初めて行く店であるため話し手はその店の料理の味について知る由もなかったが、実際に食べてみると想像以上に美味しかったときの反応で、(40) は明日学校が休みだということをたった今知らされたときの反応である。いずれも話し手が「その場で考えたり知ったりしたこと」を発話しているのである。

一方で、(38b) の「それが話し手の領域にとどまっている」とはどういうことだろうか。

(41) (外に出て雨が降っていることに気がついたときに独り言で)

あ、雨やワ。

(42) (親から勉強するようにしつこく言われたとき)

そんなに言われんでも、今からちゃんとやるワ。

(41) は話し手が外に出てみると雨が降っていることに気づいたため独り言を述べている場面である。(42) は親から何度もしつこく勉強するようにと言われたため、話し手は苛立って「何度も言われなくても今から取り掛かるところだ」という意志を表明する場面である。このように「ワ」は必ずしも聞き手に話し手の意志や考えを導入する働きがあるわけではなく、独り言で使用したり、「そんなこと分かっている」というような聞き手を突き放すニュアンスを付加したりできる。これらの特性をまとめて野間 (2011) では「話し手の領域にとどまっている」とまとめているのである。

逆に、(38) に反するような場面では「ワ」を使用することはできない。

(43) (転校生に自己紹介をするとき)

私の名前は {#香織やワ／香織ヨ}。

(44) (家族に明日学校はあるのかと聞かれたとき)

明日は体育祭の振替休日だから学校は {#休みやワ／休みヨ}。

(43)・(44) はともに、話し手にとって自明な事柄である。つまり、(38a) の「当該命題の内容が話し手がある場で考えたり知ったりしたこと」という要素に反している。なお、野間 (2011) では (38b) の「話し手の領域にとどまっている」の反例を挙げることは難しいとしている。なぜなら、実際は聞き手に向けた発話であっても意図的に「ワ」を使用して、話し手の領域にとどめているように見せかける用法が可能になるからである。

ここまで野間 (2011) で記述された「ワ」の意味用法を整理してきたが、宇和島市の若年層が使用する「ワ」と意味用法がかなり似通っていると考えられる。なお、藤原 (1986) によると下降イントネーションになる文末詞の「ワ」は九州東部、山陰、四国、近畿、中部、東北など全国各地で確認されている。さらに、日本語記述文法研究会 (2003) には「ワ」について以下のように記述されている。

地域差や世代差もあるが、「わ」という終助詞自体は用法によっては男性が用いることもある。気づきを表すような非対話的な用法は女性だけが用いるが、相手からの情報による納得や、意志の表明を表す対話的な用法は男性が用いることもある。
(日本語記述文法研究会 (2003) : 253)

これらをもって「ワ」を共通語の文末詞とするか否かは議論の余地が残るところだが、全国的に「ワ」が普及していることにより、宇和島市でも若年層を中心に近年新たに使用されるようになったのではないかと考えられる。なお、宇和島市方言の「ワ」の意味用法については今のところ野間 (2011) の説明から外れる部分が見当たらないため、改めてまとめることはしない。

5. 世代別による「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の使用実態

ここまで、宇和島市方言として使用される「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の用法について筆者の内省や先行研究を基に記述した。その結果、以下のことが明らかとなった。

- (45) a. 意向形に「ワイ」を付加する用法が消失しかけている。
 b. 主に若年層が使用する宇和島市方言の「ワ」は大阪方言の「ワ」と用法面で重なっており、全国的に分布しているものが流入している可能性がある。

(45) より、現在の宇和島市には「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の使用実態に世代差が生じていることが考えられるため、実態を明らかにするべく聞き取り調査を行った。以下では調査概要と調査結果を報告する。

5.1 聞き取り調査の概要

調査対象は6歳から12歳までの期間を愛媛県宇和島市ですごした人とし、若年層（20代）10人（男女5人ずつ）、高年層（60代以上）10人（男女5人ずつ）にそれぞれ調査した。調査時期は2018年8月から2018年10月までである。調査項目は以下の通りで、筆者が示す表現を使うか使わないかを尋ね、適宜その表現から感じられるニュアンスや、（使用しないと回答した場合は）どの程度違和感があるのかなどを質問した。

・調査項目

（平叙文）

もうそろそろ寝るということを家族に言うとき
 そろそろ {a. 寝るワイ／b. 寝ライ／c. 寝るワ}。

（意向形）

回覧板を読んでおくように家族に言われて返事をするとき
 分かった。後で {読もうワイ}。

5.2 聞き取り調査の結果

聞き取り調査の結果を表1のようにまとめる。

表1を見ると、「-a + イ」が共起した「寝ライ」が全世代で安定して使用されていることが分かる。先行研究にも記述があったように、動詞の終止形と「ワイ」が共起するとそれらが融合するという現象が若年層の話者まで引き継がれていることが指摘できる。一方で、動詞の終止形に直接「ワイ」が共起した「寝るワイ」とい

表 1：聞き取り調査の結果

回答者	寝るワイ	寝ライ	寝るワ	読もうワイ
若M01	??	●	●	*
若M03	●	●	●	●
若M05	●	●	●	??
若M11	??	??	●	??
若M12	??	●	●	●
若F02	●	●	●	??
若F03	●	●	●	??
若F05	??	??	●	?
若F11	??	●	●	??
若F12	*	●	??	??
高M01	*	●	*	??
高M03	*	?	*	??
高M11	*	●	*	??
高M12	●	●	??	??
高M13	*	●	*	??
高F01	*	●	*	??
高F03	*	??	*	??
高F11	??	●	??	??
高F12	*	●	*	??
高F13	??	●	*	??

〈凡例〉

●…問題なく使用できる

?…使用できるか迷う

??…理解できるが使用しない

*…文法的に不適格

〈回答者記号〉



う形式は若年層の方が高年層よりも許容度が高くなっている。高年層では「-a + イ」の使用に一本化されているとしたら、なぜ若年層で「ワイ」が許容されるようになっているのだろうか。この点については、6で詳しい考察を試みる。

続いて、「寝るワ」の項目を確認する。筆者の内省通り若年層ではほぼ全員が問題なく使用すると回答したのに対して、高年層では「理解できるが使用しない」が2人、「文法的に不適格」が8人という結果だった。高年層の回答者は、上昇イントネーションになる「ワ」は女性的な表現として理解できるとしたが、本稿で記述対象としている下降イントネーションになる「ワ」については使用しているのを聞いたこともなく不自然だとした人が多かった。また、関西弁的な表現だと理解している人も一定数見られた。

最後に、意向形と共起する「読もうワイ」だが、これについては全世代で「理解できるが使用しない」と回答した人が最も多かった。ある高年層話者によると「自分の母親（1924年生まれ。宇和島市出身）が使用しているのを聞いたことがある」とのことであった。このことから、意向形と共起する「ワイ」は高年層の父母世代が使用していた可能性があるものの、現在は消失しかけている表現であることが明らかとなった。

6. 「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の関係性

5では現在の宇和島市で「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の使用実態についての調査結果を述べた。この結果からどのようなことが言えるだろうか。

まず、先行研究にも言及があった意向形と共起する「ワイ」について述べる。今回の調査では、若年層でも高年層でも「理解できるが使用しない」と回答した人が大半を占めた。高年層の父母世代の人が使用していた可能性があることに加え、現在でも松山市では若年層がこの用法で「ワイ」を使用していることから、インフォーマントにとってもそれほど違和感を抱く表現ではなかったのだと考えられる。

次に、終止形と共起する「ワイ」について述べる。先行研究では前接語と融合して「-a + イ」という形式になることが指摘されており、今回の調査結果からも宇和島市では「-a + イ」が根強く使用されていることが分かった。「-a + イ」が安定して使用されているため、前接語と融合しない「終止形+ワイ」という形式が高年層では使用されなくなっているだけでなく、「文法的に不適格」という判断を下す人が大半になっているのである。

しかし、若年層は高年層とは様相を異にする。「-a + イ」は高年層と同様に問題なく使用できるが、若年層は元々宇和島市方言には存在しなかった「ワ」という文末詞を新たに獲得したのである（ただし、4で述べた通り「ワ」が共通語に由来するものなのか、大阪方言に由来するものなのかは現段階では判断できない）。

そして、「ワ」を新たに獲得したことで、若年層は「ワ」に付随する形式である「ワイ」も新たに獲得したと考えられる。なぜなら、かつての宇和島市方言の「ワイ」が復活したと考えるならば、先行研究に記述が見られた意向形と共起する用法が使用されていないことの説明がつかないからである⁴⁾。もちろん、前接語との縮約が起こらないものとして終止形と共起する用法のみが復活したと考えられなくもない。しかし、筆者は若年層が高年層の使用しない「ワ」という文末詞を新たに獲得していることは注目すべき点だと考える。「ワ」は終止形としか共起しないが、これは宇和島市の若年層が使用する「ワイ」の形式的特徴と一致しており、「ワ」に付随して「ワイ」が獲得されたことの傍証になる。

その他に宇和島市の若年層が「ワイ」を使用できる（または許容できる）ようになっている要因としては、元々宇和島市方言として「ワイ」が存在していた（現在でも「ワイ」とほぼ同じ意味合いで「-a + イ」が使用されている）ことや、同じ愛媛県内の松山市で若年層が「ワイ」を使用していることなどが影響している可能性

がある。これらのことから、現在宇和島市の若年層が獲得している「ワイ」は既存の形式を「ワ」の用法に当てはめて新たに取り入れたものと結論づけることができる。

上記のことをまとめると、「ワイ」・「-a + イ」・「ワ」の関係性は以下ようになる。

(46) 宇和島市の高年層の様相

元々宇和島市方言として存在していた意向形と共起する「ワイ」は消失しつつあり、終止形と共起する「ワイ」は前接語との融合によって生じる「-a + イ」という形式に一本化されている。なお、「ワ」は獲得していない。

(47) 宇和島市の若年層の様相

元々宇和島市方言として存在していた意向形と共起する「ワイ」は消失しつつあり、終止形と共起する「ワイ」は前接語との融合によって生じる「-a + イ」という形式が広く使用されている。そして新たに「ワ」という文末詞を獲得したことで、終止形と共起する「ワイ」が許容されるようになった。ただし、かつての宇和島市方言の「ワイ」が復活したのではなく、既存の形式を「ワ」の用法に当てはめて新たに取り入れたものだと考えられる。

7. まとめ

本稿では愛媛県宇和島市で使用される「ワイ」および「-a + イ」と主に若年層が使用する「ワ」について、筆者の内省や先行研究に基づいて記述した。また、各形式の使用実態を観察するために行った聞き取り調査の結果から、①若年層が「ワ」という文末詞を新たに獲得したこと、②①に付随して既存の形式の「再解釈」が行われ、「終止形 + ワイ」という用法が若年層では高年層より許容されるようになっていることを明らかにした。

今後に残された課題としては、若年層が新たに獲得した「ワ」が共通語に由来するものなのかあるいは大阪方言など特定の方言に由来するものなのかを明らかにすることや、筆者が用法記述を行ってきた宇和島市の方言文末詞「テヤ」⁵⁾との関係性を記述したりすることが挙げられる。特に後者については、ある地域の方言の中に新たな文末詞が加わることで、既存の文末詞の表現体系が変化する様子を描きたいと考えている。

注

- 1) 野田春美 (2002)、日本語記述文法研究会 (2003) などの記述を参照した。
- 2) 広島大学大学院生の久保博雅氏。
- 3) 野間 (2012) によると、大阪方言の「ワイ」が使える状況は「[突き放し]」のニュアンスを伴う場合」としている。しかし、宇和島市方言では (17)・(18) などのように聞き手を突き放すとは言えない状況でも「ワイ」および「-a + イ」を使用することができ、両者の意味用法は完全に一致するわけではない。宇和島市方言の「ワイ」と大阪方言の「ワイ」の詳細な比較は今後の課題としておく。
- 4) 聞き取り調査で高年層話者の多くが終止形と共に起して前接語との融合が起こらない「寝るワイ」という表現 (2 で述べた杉山 (1997) でいう②の用法) を「文法的に不適格」と判断したことも、かつての宇和島市方言の「ワイ」とは異なるという認識の表れだと考えられる。
- 5) 中川 (2018a・b) を参照されたい。

付記

本研究を進めるにあたって、お忙しいところ聞き取り調査に快く協力してくださった方々に心から御礼申し上げます。また、松山市方言の話者として貴重な情報を提供してくださった久保博雅氏にもこの場を借りて御礼申し上げます。

参考文献

- 工藤真由美・八亀裕美 (2008) 「7. 「花子、元気ない」は「花子は元気だ」？—ふらふらする形容詞と形容動詞—」『複数の日本語』、pp.117-134、講談社選書メチエ
- 国村三郎 (1956) 『宇和島語法大略』宇和島市立図書館
- 篠崎充男 (1987) 『宇和島市の方言—話と語彙—』自費出版
- 杉山正世 (1997) 「愛媛県 宇和島市」井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎 (編) 『日本列島方言叢書② 四国方言考② (香川県・愛媛県)』、pp.574-553、ゆまに書房 (国立国語研究所 (1959) 『日本方言の記述的研究』に収録されたものの再録)
- 中川寛之 (2018a) 「愛媛県南予地方の方言文末詞「テヤ」と共起する文タイプ」『国文学』102、pp.444-425、関西大学国文学会
- (2018b) 「愛媛県南予地方の方言文末詞「テヤ」の用法—世代差比較を中心に—」日本方言研究会第106回研究発表会発表原稿集

日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』くろしお出版

野田春美（2002）「第 8 章 終助詞の機能」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書 4 モダリティ』、pp.261-288、くろしお出版

野間純平（2011）「大阪方言の文末詞デとワ」『阪大社会言語学研究ノート』9、pp.30-45、大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

———（2012）「大阪方言における「イ」の機能—文末詞「ワイ」「カイ」の意味にもとづいて—」『阪大社会言語学研究ノート』10、pp.55-65、大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

藤原与一（1986）『方言文末詞〈文末助詞〉の研究（下）』春陽堂書店

（なかがわ ひろゆき／本学大学院生）